

ハイパフォーマンス・コア・サイエンス の未来志向

—今後 求められる人材とは—
—オーストラリアやグローバルな視座からのメッセージ—

本事業では、我が国の国際競技力向上を目的とした実践的・先端的ハイパフォーマンス アスリート支援研究を担いその研究成果が現場に実装されるように推進する、中心的な若手人材（ハイパフォーマンス・コア・サイエンティスト）の育成・養成を目的の一つとしています。

その取り組みの一環として、「そのハイパフォーマンス・コア・サイエンティストにもとめられるコンピテンシーや研究力量、人材像」について運動スポーツ医・科学の国際的トップ研究者から具体的な研究成果や現場実践をふまえてご講演いただき、関係者の議論を通じて、育成の方向性を確認、共有することを趣旨としています。



PROGRAM

16:20

開会挨拶 伊坂 忠夫（拠点リーダー、スポーツ健康科学総合研究所長、立命館大学副学長）
スポーツ庁代表挨拶 日比 謙一郎（スポーツ庁競技スポーツ課 課長）



「ハイパフォーマンス・アスリート極限支援研究拠点
若手人材育成パスウェイの紹介」

コーディネーター 橋本 健志（立命館大学スポーツ健康科学部 教授）

「ハイパフォーマンス・コア・サイエンス」を担う人材
“になる” ために必要なものは？

16:30 講演 野坂 和則先生（オーストラリアエディスコーワン大学・教授）



1995年、横浜市立大学医学部博士号（医科学）を取得。
2004年4月からエディスコーワン大学に移り、2009年より教授。
2016年～医科学健康科学部の運動スポーツ科学部門ディレクター
を経て2022年～同学部の博士課程コーディネーター（現職）。
エキセントリック運動の研究者として世界的に知られ、360編を超える学術研究論文を出している。

17:45 閉会挨拶 橋本 健志

17:50 閉会



参加無料

参加お申込み
はこちら

事前のお申込みをお願いします

12/19 TUESDAY 16:20-17:50

現地会場
立命館大学
びわこくさつキャンパス
ラルカディア 1F 102
オンライン配信あり
(Zoomウェビナー)



JR南草津駅より近江鉄道バス「立命館大学行き」にて約20分

主催：立命館大学スポーツ健康科学総合研究所
共催：立命館大学大学院スポーツ健康科学研究科
協力：筑波大学、順天堂大学、ハイパフォーマンス・スポーツセンター（HPSC）

立命館大学BKCリサーチオフィス(森・高須) ☎ 077-561-2802 ✉ spo-ins@st.ritsume.ac.jp



スポーツ健康科学総合研究所・スポーツ庁委託事業「先端的スポーツ医・科学研究推進事業」
ハイパフォーマンス・アスリート極限支援研究拠点主催 シンポジウム

「ハイパフォーマンス・コア・サイエンスの未来志向」
～今後 求められる人材とは～
～オーストラリアやグローバルな視座からのメッセージ～
開催報告

スポーツ健康科学総合研究所主催シンポジウムを開催しました。

2023年12月19日（火）立命館大学びわこ・くさつキャンパスにおいて
スポーツ健康科学総合研究所・スポーツ庁委託事業「先端的スポーツ医・科学研究推進事業」
ハイパフォーマンス・アスリート極限支援研究拠点主催シンポジウム
「ハイパフォーマンス・コア・サイエンスの未来志向」を開催しました。

開催当日は現地参加78名、オンライン参加100名、合計178名の方々にご参加いただきました。

開会挨拶

立命館大学副学長/伊坂忠夫先生（拠点リーダー、スポーツ健康科学総合研究所長）による開会挨拶を行い、本研究所のスポーツ庁委託事業とそれに採択されている筑波大学、順天堂大学と本学の3大学による若手人材育成における説明、ハイパフォーマンススポーツセンター（以下HPSC）との連携や、シンポジウム趣旨をご紹介します。

また、スポーツ庁競技スポーツ課課長の日比様より、「先端的スポーツ医・科学研究推進事業」における各大学拠点の設置、学生や若手研究者に向けてのメッセージと今後の展望について、代表挨拶をいただきました。



「ハイパフォーマンス・コア・サイエンスの未来志向」

司会：笹場 育子（立命館大学スポーツ健康科学部 准教授）

趣旨説明 ハイパフォーマンス・アスリート極限支援研究拠点 若手人材育成パスウェイの紹介

立命館大学スポーツ健康科学部・教授/橋本健志先生により、ハイパフォーマンス・コア・サイエンスと育成プログラムの概要、HPSC連携による若手研究者・人材育成について説明いただきました。

本学では大きく2つ、若手人材育成において掲げています。1つ目は実践的・先端的アスリート支援研究を行い、現場へのアスリート支援も行っておられるHPSCとの密な連携による理論と実践、教学を進めています。そして2つ目は、本年度より学部、研究科ともに新しいカリキュラムを始動させており、そこに密な連携を強化する科目を設置しています。そうした先端的な研究に裏打ちされた実行者を育成していきたいと考えております。



講演 「ハイパフォーマンス・コア・サイエンス」を担う人材“になる”ために必要なものは？

オーストラリアエディスコワン大学・教授の野坂和則先生により、野坂先生が考える「ハイパフォーマンス」とは、またオーストラリアと日本それぞれにおける競技スポーツ、研究レベルにおける人材についてご講演いただきました。

オーストラリアだけでなく、その他海外の現状や研究者にとって大事な視点や研究者になるために必要な要素



を学ぶ機会となり、具体的な例や野坂先生のご経験についてお話しいただき、世界レベルの観点から研究現場について考えることができました。

講演後は、下記の先生方に指定コメントをいただきました。先生方より様々な観点から質問やコメントをいただくことができ、大変盛り上がった内容となりました。また、講演後も学生からの質疑応答が多く、質問者の列ができていたことが大変印象的でした。



◆筑波大学「体育・医工情報融合型 スポーツイノベーション研究拠点」
高橋 英幸先生



◆順天堂大学「ハイパフォーマンス・トランスレーショナル・リサーチ拠点」副拠点長
鈴木 大地先生



◆ハイパフォーマンススポーツセンター (HPSC)
星川 雅子先生

参加者からの感想

「構造立てて教育と研究面で指導されていて、ものすごく勉強になった」「現在、大学院進学を考えていて、研究にまつわる話や、現場への応用、エキセントリックの話など幅広い内容を学べた」「研究を進めるにあたって何を念頭にすべきなのか、整理されたお話をお伺い出来て参考になった」「自分自身が今まで知らなかった世界に関する知識や考え方に触れることが出来た」など、多くのご感想をいただきました。

閉会挨拶

立命館大学スポーツ健康科学部教授、本シンポジウムにおけるコーディネーターを務めました橋本健志先生よりご挨拶を行いました。ハイパフォーマンス・コア・サイエンスにおいて、抽出した課題に真摯に取り組み、精度の高い研究を発信していくこと、ラボベースでの研究とフィールドとの研究のギャップをいかに埋めていくのかという課題から、立命館が念頭に置く「極限支援」に各大学、HPSCを含め、連携を取りながら進めていきたい意向をお伝えしました。

本研究所の先端的スポーツ医科学研究推進事業に採択された本事業では、我が国の国際競技力向上を目的とした実践的・先端的ハイパフォーマンスアスリート支援研究を担いその研究成果が現場に実装されるように推進する、中心的な若手人材（ハイパフォーマンス・コア・サイエンティスト）の育成・養成に焦点をあて、検討しました。

今後もスポーツ庁、HPSC、そして筑波大学、順天堂大学を含めた様々な団体と連携して世界最先端の研究に取り組み、スポーツ科学における先端的研究者の育成を目指し、成果を社会に還元するよう努めてまいります。